

## ソフトウェア品質技術者資格 派遣責任者インタビュー 株式会社デンソークリエイト様

### 「“初級試験合格”を新設の品質保証部門の組織目標として掲げ、18名中13名が合格することが出来ました！」

デンソーグループのソフトウェア開発企業として、“時代に聞き、時代を拓き、最高の品質を商品とし、お客様と喜びを分かち合う”を経営理念とするなど、品質への取り組みには定評のある(株)デンソークリエイト。2013年の品質推進室設立を機に、「ソフトウェア品質技術者資格制度」への取り組みをスタートされました。成果を創出するのはこれからになると思われませんが、そのエネルギッシュな取り組みをインタビューして参りましたので、ご紹介をします。

(聞き手:日本科学技術連盟 安随 正巳)

### 株式会社デンソークリエイト 事業推進センター 品質推進室 室長 広瀬 智様 デスク 竹下 千晶様

#### デンソーグループのソフトウェア開発企業

聞き手:まず、貴社の概要を教えてください。

広瀬:当社は、1991年にデンソーのカーエレクトロニクス開発部門から分離独立し、設立されました。車載ソフトウェア開発以外に市販ソフトウェア製品の開発、販売も手掛けています。

聞き手:車載ソフトウェア開発の分野ではもちろん有名ですが、工数管理・プロジェクト管理ツールの「Time Tracker FX」はかなりのヒット商品だそうですね。

広瀬:はい。お陰さまで、発売以来ユーザー数40,000名を超えるほどに拡大しており、当社でもヒット商品の一つです。



《お話を伺った 品質推進室 広瀬 智 室長》

## **「初級ソフトウェア品質技術者資格試験」に組織としてチャレンジ！**

聞き手:ところで、「ソフトウェア品質技術者資格制度」に近年チャレンジしていただいていますね。2012年4名、2013年18名の方に受験いただいています。本資格を知ったきっかけはなんだったのでしょうか？

竹下:2009年から、SQiP シンポジウムに「Time Tracker FX」のツール出展をしていたことで、日科技連の営業の方が当社に訪問されるようになりました。そのときに、本資格試験の存在を知りました。

聞き手:貴社が受験をスタートいただいたのは、2012年からですので、受験までには少し時間がかかったようですね。

竹下:はい。その当時は「へえ。ソフトウェア品質の資格があるんだあ」程度の理解でしたから(笑)。

聞き手:それが、なぜ受験をいただくようになったのでしょうか？

広瀬:はじめて受験した2012年当初は、ある部門内で品質保証活動業務を担当していた部隊のメンバーが数名受験していました。しかしながら、それは組織立ったものではありませんでした。

2013年に、独立した組織として品質保証部隊(品質推進室)が設立されたのを機に、資格試験の合格を組織としての目標としたのです。

聞き手:それは、なぜ合格を組織目標とされたのでしょうか？

広瀬:目的は二つありました。一つは、品質保証を担当するメンバーの品質に関するスキルを資格試験の受験を通して獲得することです。今まで品質に触れていないメンバーがいたこともあります。もう一つは、適切なスキルを有したメンバーが品質保証を担当している、ということを社内・外に対して説明がしやすいということです。アピールにもなると思っています。

聞き手:それは大変ありがたいことです。ソフトウェア品質という冠のつく日本で唯一の資格ですから。では、受験の結果はどうでしたか？

広瀬:名古屋会場の初級試験では、18名の受験者中13名が合格するという快挙(?)を達成することが出来ました。

聞き手:本資格は、過去11回実施しておりますが(2013年10月現在)、平均合格率は約40%ですから、驚異的な数字です。素晴らしいですね。その秘密を是非知りたいです！



《お話を伺った 竹下 千晶 デスク》

竹下:それは、書籍『初級問題集』を中心に勉強したことが大きかったと思います。組織の中で3つのグループに分かれてそれぞれのやり方で取り組みました。

私が所属していたグループでは、担当のメンバーが、問題集からランダムにメールで出題して、グループのメンバーはそれに回答する。回答が出揃うと、その正答と解説をまたメールで展開する、といったサイクルを数日に1回のペースで回したんです。定期的な勉強会を開催していたチームもありました。『初級問題集』だけでなく、SQuBOKを使っていたグループもありました。

**聞き手:そのチームワークはすごいですね。**

竹下:はい。我ながらそう思います。それによって、“みんなで達成する!”という一体感も醸成できたので、まさに“一石二鳥”でしたね。

## **今後の目標**

**聞き手:初級合格の次の目標は…。**

竹下:はい。中級試験の合格です。今まで、名古屋での中級試験開催はなかったのですが、日科技連さんに強く要望し受け入れてもらいました!

**聞き手:それは執念ですね(笑)。素晴らしい!**

竹下:ありがとうございます。やはり、受験地が遠いと、腰が重くなってしまうので。でもおかげさまで、2013年11月に名古屋で中級試験が開催されることになり、当社からも14名がエントリーしています。

**聞き手:初級資格試験受験の成果は出ているのでしょうか?率直に教えてください。**

広瀬:本格的に成果が出てくるのはこれからだと思います。しかし、現在でも効果は出ています。品質推進室メンバーで品質の言葉自体を知らないメンバーも多かったんです。それが受験を通じた勉強により基礎知識の修得ができたのです。品質推進室は、各プロジェクトの品質面を中心としたサポートをする立場の「品質専門家」的な位置づけとなるわけですが、そのバックボーンになります。グループ会社向けのサービスに対しても然りです。

竹下:今後の課題としては、現場メンバーが受験する動機付けをしていくことですね。

やはり、品質保証をするのは現場です。現場で品質を造りこんでいかないとソフトウェア品質は向上しません。資格があれば品質が良くなる、とはいきませんが、品質に対する意識の向上や、品質を確保する上での基礎的なスキルとしては有効だと思います。

**聞き手:まさに、品質管理の真髄である“品質は工程で作りこむ”ですね!**

竹下:はい。これからも頑張っていきたいです。

**聞き手:本日は、貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。**